

第 15 回昭和村統合小中学校推進協議会 議事録

日 時:令和 8 年 6 月 1 日(月)

午後 6 時 30 分～午後 9 時 00 分

場 所:昭和村コミュニティセンター大会議室

出席者:24名

【会議概要】

本協議会は、昭和村における義務教育学校の建設候補地を 1 箇所に絞り込むことを目的として開催された。

まず、最終候補地として残った「南小校舎活用案」と「南小解体新築案」の 2 案について委員による投票を実施した。その結果が僅差であったことから、当初の予定を変更し、「鎌沢案」を含めた 3 案による総当たり(リーグ戦)方式での比較検討へ移行した。

各比較投票の結果、いずれの組み合わせにおいても「鎌沢案」が最も多くの支持を集めた。主な理由として、建設期間中の児童への負担が少ないこと、全児童が公平な環境で学校生活を始められること、村の未来にふさわしい教育環境をゼロから構築できること等が挙げられた。

これらの結果を踏まえ、協議会の総意として「鎌沢」を建設候補地として選定した。ただし、最もコストがかかる案であることから、今後は事業費の圧縮が大きな課題であることが確認された。

1.開会(進行:事務局星野補佐)

2.あいさつ(会長:小野教育長)

3.協議事項(進行:小野会長)

(1)建設候補地の絞り込みについて(候補地1ヶ所の選定)

○事務局説明(局長)

事務局より、前回の協議会で「南小校舎活用案」と「南小解体新築案」の 2 案について各委員が検討し、本日結論を出す予定であることが確認された。本日の協議会の進め方として、まずこの南小に関する 2 案について協議し、投票によって 1 案に絞り込んだ後、残る「鎌沢案」との比較検討に進むという手順が提案された。

○協議の内容及び結果

①「南小校舎活用案」と「南小解体新築案」の比較検討

会長の進行のもと、まず「南小校舎活用案」と「南小解体新築案」について、委員による投票が行われた。

投票結果(投票者 24 名)

南小解体新築案:14 票

南小校舎活用案:10 票

【各案の主な支持理由】

- ・南小校舎活用案:「建設費を抑制できる」「既存施設を有効活用すべき」など、主にコスト面を重視する意見が挙げられた。
- ・南小解体新築案:「新しい教育理念にふさわしい校舎を設計できる」「長期的に見れば新築の方が望ましい」「子どもたちに新しい環境を提供したい」など、教育環境の質や設計の自由度、将来性を重視する意見が挙げられた。

② 比較検討方式の変更と3案による総当たり投票の実施

上記投票結果が14対10と僅差であり、明確な総意形成には至っていないとの会長判断から、協議の進め方について再検討が行われた。当初の「Ⅰ案に絞ってから次の案と比較する」方式では、委員の多様な意見を十分に反映できない可能性があるとの認識が共有された。そこで、方針を変更し、「Ⅰ 南小校舎活用案」「Ⅱ 南小解体新築案」「Ⅲ 鎌沢案」の3案を、総当たり（リーグ戦）方式で直接比較し、各案の優位性を多角的に評価することとなった。具体的には、以下の組み合わせで比較投票が実施された。

【投票結果】

	南小活用	南小解体新築	鎌 沢	合計
南小活用		10	3	13
南小解体新築	14		8	22
鎌 沢	21	16		37

延べ投票数 72票（24名×3票）

③ 協議会の総意形成と最終決定

上記2回の投票の結果、「鎌沢案」は「南小解体新築案」および「南小活用案」のいずれと比較した場合でも、過半数の支持を得た。委員からは、「鎌沢案」を支持する理由として、以下の点が挙げられた。

- ・児童への負担軽減:建設期間中、児童が他校舎へ移動する必要がなく、学習環境や心身への負担が最も少ない。
- ・公平性の確保:全地区の児童が同じ条件で新しい学校生活を始められる。
- ・事業推進の確実性:南小案で懸念される埋蔵文化財調査による工期遅延のリスクが比較的低く、計画通りに事業を進めやすい。
- ・未来への投資:昭和村の未来を象徴する、新しい教育理念にふさわしい校舎をゼロから設計できる。

これらの議論と投票結果を踏まえ、会長が「推進協議会の総意として、建設候補地を『鎌沢』とすることによろしいか」と諮り、全委員の了承を得て、正式に決定した。

④ 今後の課題に関する議論

「鎌沢案」の選定にあたり、最も高額な事業費（概算 71 億円）が最大の課題であることが確認され、今後の村長への報告や議会・住民への説明に向けて、以下の点が議論された。

- ・**コストの圧縮**: 委員や事務局から、今後、事業費を圧縮するための具体的な検討が不可欠であるとの意見が出された。方策として、敷地規模の見直し（例：道路の北側または南側のみを利用）や、昭和中学校グラウンド等の既存施設の活用などが挙げられた。
- ・**説明責任の遂行**: 議会や住民からは「なぜ財政が厳しい中、最も高コストな案を選んだのか」という厳しい問いが予想される。それに対し、協議会としては「目先のコストだけでなく、児童への負担軽減という教育的配慮を最優先した」「長期的な視点では、村の未来への最も効果的な投資である」という論点で、説明責任を果たしていく必要があることが確認された。
- ・**次善の策の必要性**: 最終的に「鎌沢案」で合意したが、万が一、コスト圧縮が困難であるなど計画推進が不可能になる事態も想定し、次善の策についての議論も必要となる可能性が示唆された。

(2) その他 特になし。

4. その他

次回開催日程: 次回は、村長への報告及び地域説明会を経た後、7 月下旬から 8 月頃に開催する方向で調整することを確認。正式な日程は別途事務局より連絡することとなった。

5. 閉会 （河野副会長）